

試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 PGSホーム

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 光触媒PGSコートS塗布板

表 題 インフルエンザウイルス不活性化試験

2020 年 02 月 21 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

インフルエンザウイルス不活性化試験

1 依頼者

株式会社 PGSホーム

2 検体

光触媒PGSコートS塗布板

3 試験概要

検体にインフルエンザウイルスのウイルス液を滴下(以下「試料」という。)し、白色蛍光灯照射下で所定時間保存した後、ウイルス感染価を測定した。また、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染価の測定方法について検討した。

4 試験結果

1) 予備試験(中和条件の確認)

試料を細胞維持培地で洗い出すことにより、検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した(表-3 中和条件を参照)。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また、使用細胞及び培地を表-2、試験条件を表-3に示した。

表-1 試料洗い出し液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対象	log TCID ₅₀ /mL	
		開始時	4時間後
インフルエンザ ウイルス	検体	—	<0.5
	対照(ガラス板)	5.7	5.6

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈

光照射条件: 1700 Lx

保存温度: 室温

<0.5: 検出せず

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	MDCK (NBL-2) 細胞 JCRB 9029株	
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]	
細胞維持培地	イーグルMEM培地「ニッスイ」①	1000 mL
	10 %NaHCO ₃	14 mL
	L-グルタミン(30 g/L)	9.8 mL
	100×MEM用ビタミン液	30 mL
	10 %アルブミン	20 mL
	0.25 %トリプシン	20 mL

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Influenza A virus</i> (H1N1) A/PR/8/34 ATCC VR-1469 (インフルエンザウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
試料	検体(大きさ: 約3 cm×3 cm)の依頼者指定面にウイルス液0.2 mLを滴下
光源の種類	白色蛍光ランプ, FL20SSW/18 18 W[パナソニック株式会社]
保存条件	4時間(1700 Lx照射下, 室温)
中和条件	細胞維持培地2 mLで洗い出し
対照	ガラス板
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法

以 上